藤井寺市発掘調査概報　第1号

2009年3月
藤井寺市教育委員会

アリ山古墳（ARK2008－1区）

アリ山古墳は誉田御廟山古墳の外堤西側に存在した方墳で、一辺45ｍを測る。現状は北側、西側及び東側を擁壁で囲まれて宅地化されていた。1961年に実施された発掘調査では、墳頂に3基の施設の存在を確認するなど、貴重な成果をあげていることは周知のとおりである。アリ山古墳の南側には、一辺50ｍの方墳、東山古墳が存在する。

病院建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出されたため、協議を行い、申請者の依頼を受けて、道路建設部分にトレンチを設定して調査を実施した。調査面積は約95㎡である。トレンチを設定した場所は、アリ山古墳の墳丘に北接する位置にあたる。北側の周濠等、同古墳に関連する施設の検出も予測される場所であり、そのような認識のもとに調査を実施した。

調査の経過及び成果

調査区は農地として使用されており、西側の道路より約3ｍ、墳丘部分の現状より約2ｍ低い。西側の道路部分が約3ｍ高いのは、道路建設に際して盛土がなされたためである。

現状のレベルはT.P.23.6ｍ程度であるが、西端は段をなして高くなっておりT.P.24.2ｍを測り、0.6ｍ程度の比高が認められる。このため、西端部分以外は耕土（第1層）の下に淡灰褐色細砂（第2層）があることを基本層序とするが、西端部分は第1層と第2層の間に灰色粘質土と暗褐灰色細砂が混じる層（第8層）が存在する。第2層及び第8層は、中世以降に堆積したものである。

調査区は地形分類上は下位段丘上に位置しているが、すぐ東に氾濫原と接している。このため、地山の状況は一様ではなく、複数の層の堆積が認められる。調査では、特に遺構検出の際に、地山と遺構埋土との判別に時間を要したが、遺物出土の有無や断ち割りによる各層の堆積状況の観察等により、AからHの各層を地山と認識した。地山上面は場所により高低差があるが、トレンチ断面の観察では、標高の最も高いところでT.P.23.4ｍ前後、最も低いところでT.P.23.1ｍ前後を測る。

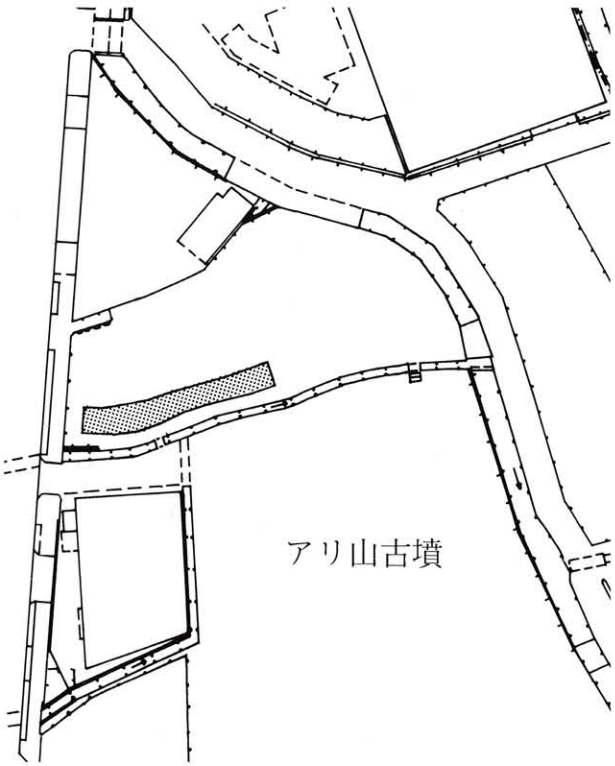


図1　トレンチ位置図（S＝1：1,000）

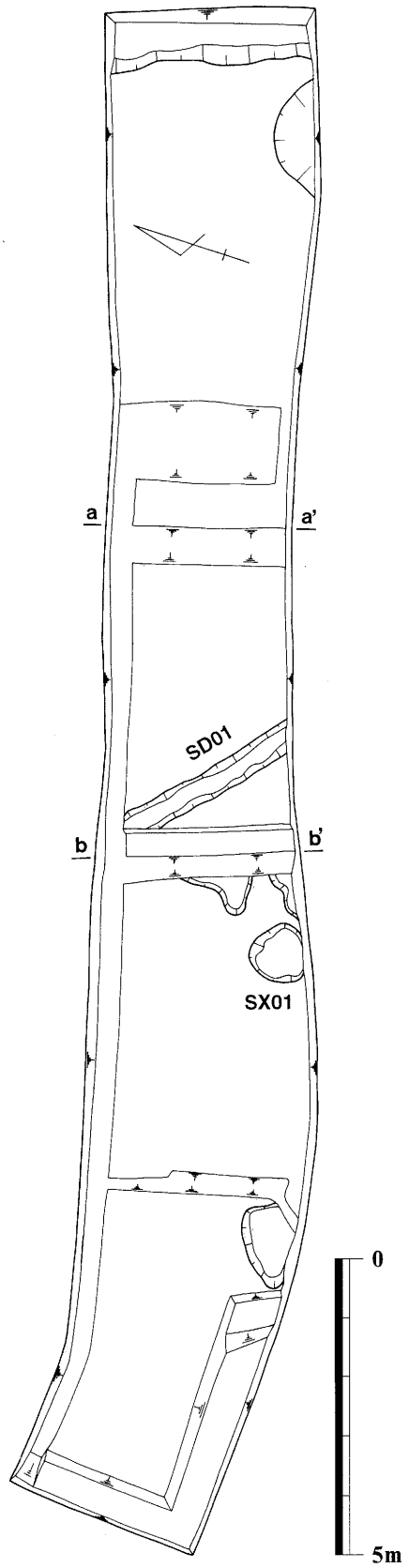


図２　遺構平面図

遺構検出は、すべて地山上面で行った。

SD01 は、 トレンチ中央部で検出した溝である。北西方向に走り、上端の平面形態はほぼ直線である。幅 0.5 m前後、深さ 0.1 m前後を測る。埋土は淡灰色細砂である。遺物は土師器の細片のみが出土した。

SX01 は、トレンチ西側で検出した掘り込みである。上端の平面形態はいびつな円形を呈し、直径は最大で 1 m程度、深さ 0.16 m程度を測る。埋土は灰色細砂である。この掘り込みについては、人為的に掘削されたものというよりも、自然のくぼみに土が堆積したものである可能性が高いと思われる。トレンチ西側では、他にもいびつな円形を呈した掘り込みを検出しているが、これについても自然のくぼみに土が堆積したものであろう。

以上の他にトレンチ東端で掘り込みと井戸を検出したが、埋土の状況から、いずれも中世か近世以降の所産であると思われる。

なお、SX01 の西側で、円筒埴輪片と若干の須恵器片が地山上にまとまって散乱している地点が認められた（写真 5、遺物集中地点）。遺構としては認識できなかったが、何らかの人為的な行為の結果である可能性も考えられる。

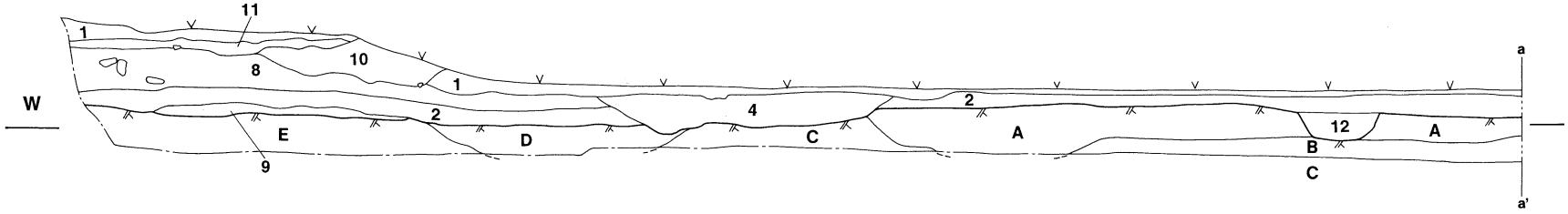
遺物は整理用テンバコ 3 箱分出土した。先に述べた SD 01 出土土器と SX01 西側の遺物集中地点のものを除いては、いずれも包含層からの出土で、原位置をとどめているものは認められない。円筒埴輪、形象埴輪、土師器、須恵器、瓦器、瓦が認められるが、いずれも破片である。

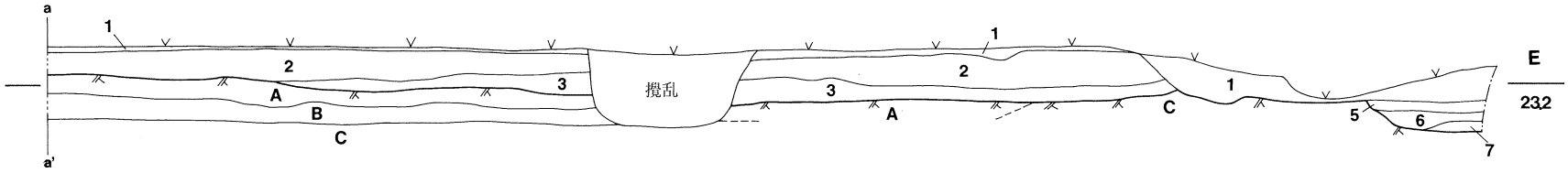
盾形埴輪と蓋形埴輪の 2 点の形象埴輪を図化した。アリ山古墳の形象埴輪は、1961 年の調査において、甲冑形埴輪、草摺形埴輪、蓋形埴輪等の破片の出土が報告されており、今回出土の 2 点の形象埴輪は、同古墳の形象埴輪の内容について新たな知見を加えることとなった。

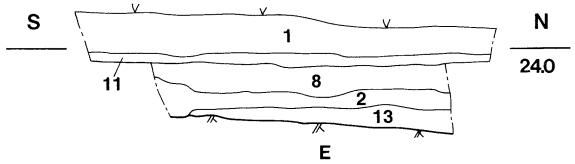
小結

今回の調査では、アリ山古墳に使用されたと思われる埴輪は出土したが、当初予測していた周濠等、同古墳に直接関連する施設は確認できなかった。これについては周辺の状況も視野に入れて今後検討していく必要がある。（新開）

参考文献　　北野耕平 1964「野中アリ山古墳」『河内における古墳の調査』







0　　5m

1　耕土
2　淡灰褐色細砂
3　灰色粘質土（淡灰褐色細砂が少量混じる）
4　灰色粘質土
5　灰白色細砂（淡褐灰色細砂が少量混じる）
6　灰白色粘質土
7　淡青灰色粘土（淡黄灰色細砂がごく少量混じる）
8　灰色粘質土と暗褐灰色細砂が混じる層
9　灰色細砂（暗黄灰色細砂が混じる）
10　暗灰色細砂（3cm大の礫が混じる）
11　褐灰色細砂（床土）
12　淡灰色細砂
13　褐灰色細砂と淡青灰色細砂がまだらに混じる層
A　淡灰色粗砂（3～5cm大の礫と3～8cm大の褐灰色微砂ブロックが混じる）
B　灰白色砂礫（3cm大の礫を少量含む）
C　黄灰色砂礫と淡灰色砂礫が縞状に混じる層
D　灰色砂質土と淡黄灰色砂礫が混じる層
E　黄灰色砂礫（灰色砂礫が混じる）
F　黄灰色細砂
G　淡黄褐色シルトと淡灰色シルトが混じる層
H　淡灰白色砂礫（3cm大の礫が混じる）
A～Hは全て地山

図3　トレンチ断面図

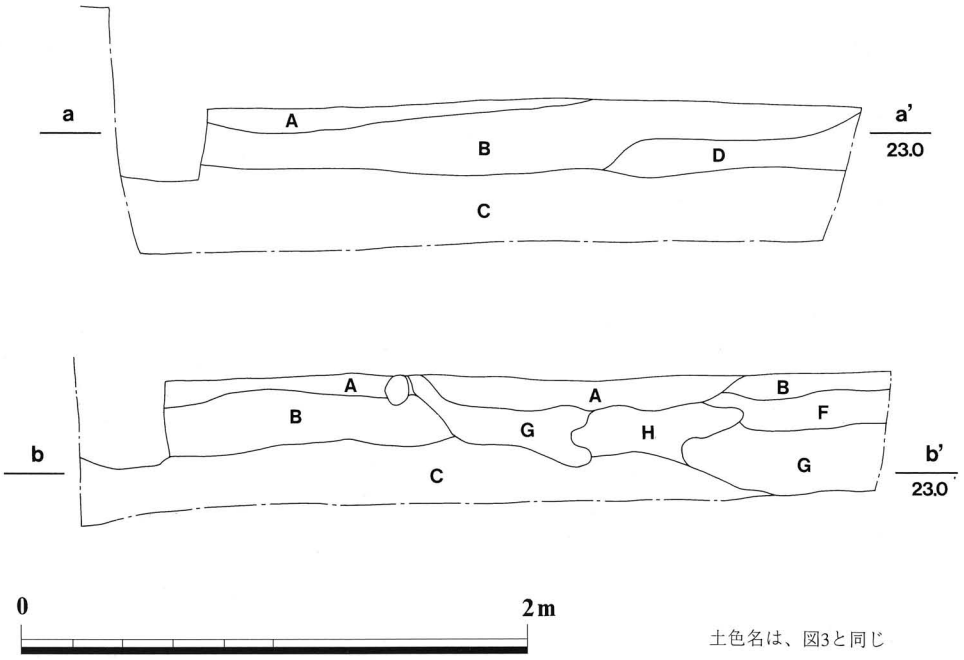


図４ 断ち割り断面図

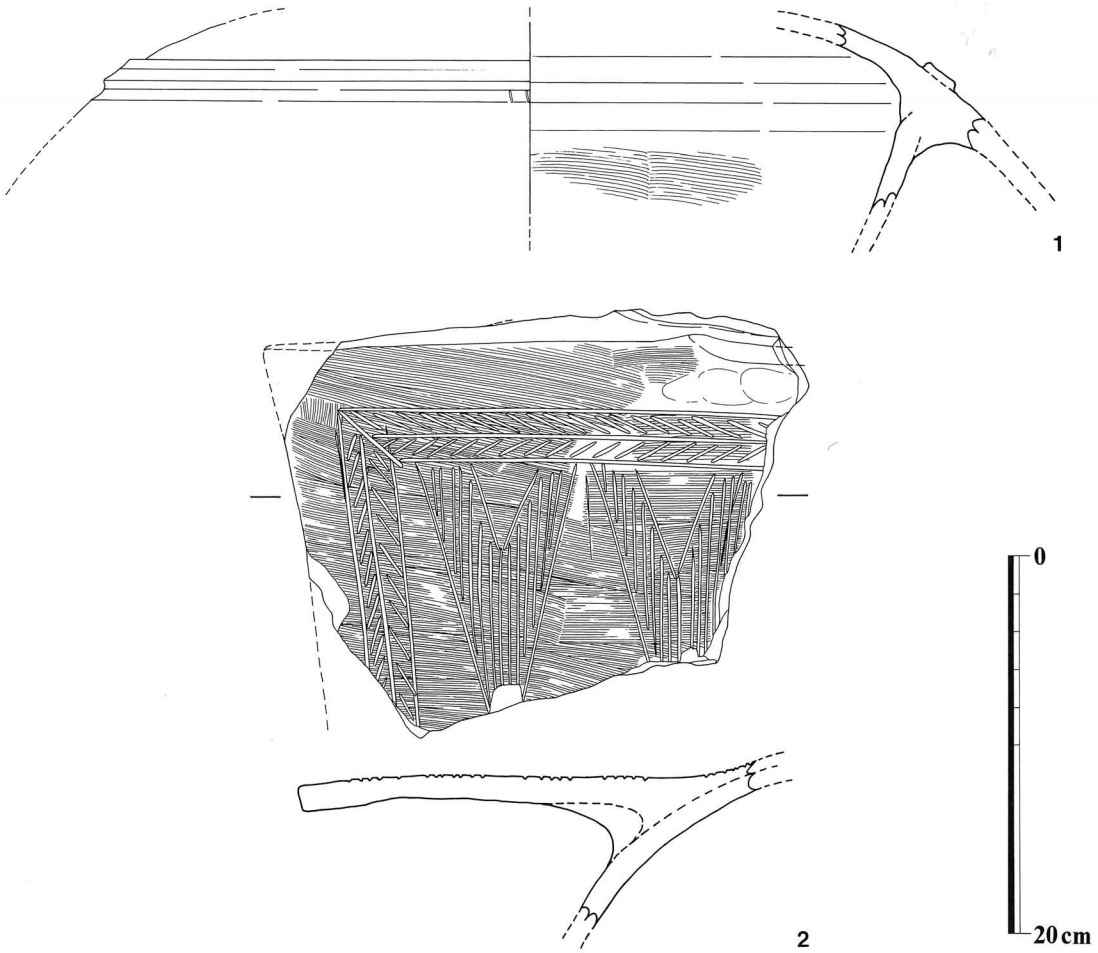


図５ 遺物実測図（1：蓋形埴輪、2：盾形埴輪）

写真1　全景（東より）

写真3　a － a' 断ち割り断面（西より）

写真4　b － b' 断ち割り断面（西より）

写真2　全景（西より、後方は誉田御廟山古墳）

写真5　遺物集中地点（北より）

写真６　蓋形埴輪

写真７　盾形埴輪

例　言

1、本書は、病院建設に伴い2008年度に実施した、アリ山古墳（ARK2008－1区）発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市野中1丁目120－3、野中2丁目121に所在する。
2、調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2008年10月30日～11月19日、整理作業（内業）2008年12月11日～2009年1月30日である。
3、本書の作成は新開義夫が行い、木本泰、下地陽子、寺崎理恵、深尾まき子が参加した。
4、調査にあたり、神戸商船大学名誉教授　北野耕平氏よりご指導、ご教示をいただきました。心よりお礼申し上げます。
5、遺構写真の撮影は新開が行ったが、遺物写真の撮影は有限会社阿南写真工房にお願いした。
6、図面の方位は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。トレンチ位置図は、上を座標北とした。

報告書抄録

ふりがな	ありやまこふん
書名	アリ山古墳
副書名	ARK2008－1区
シリーズ名	藤井寺市発掘調査概報
シリーズ番号	第1号
編著者名	新開義夫
編集機関	藤井寺市教育委員会
所在地	〒583-8583　大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号　TEL 072-939-1111（代）
発行年月日	西暦2009年3月2日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査面積 ㎡	調査機関	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ありやまこふん アリ山古墳	おおさかふ 大阪府 ふじいでらし 藤井寺市 のなか 野中	27226	41	34°33′11″	135°36′19″	95	現地調査（外業）2008年10月30日～11月19日 整理作業（内業）2008年12月11日～2009年1月30日	病院建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
アリ山古墳	墓	古墳	溝、土壙	円筒埴輪、形象埴輪	